

みずほCustomer Desk Report 2020/03/17号 (As of 2020/03/16)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.05
TKY 9:00AM	106.50	1.1158	118.45	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	107.56	1.1240	119.82	1.2399	0.6178
SYD-NY Low	105.15	1.1051	117.15	1.2429	0.6311
NY 5:00 PM	105.86	1.1183	118.40	1.2203	0.6077
NY DOW	20,188.52	▲ 2,997.10	日本2年債	-0.190	1.00bp
NASDAQ	6,904.59	▲ 970.28	日本10年債	0.006	1.55bp
S&P	2,386.13	▲ 324.89	米国2年債	0.3679	▲ 13.54bp
日経平均	17,002.04	▲ 429.01	米国5年債	0.5031	▲ 22.33bp
TOPIX	1,236.34	▲ 25.36	米国10年債	0.7355	▲ 24.26bp
シカゴ日経先物	16,220.00	▲ 1,710.00	独10年債	-0.4655	8.75bp
ロンドンFT	5,151.08	▲ 215.03	英10年債	0.4300	2.25bp
DAX	8,742.25	▲ 489.83	豪10年債	0.8040	▲ 8.85bp
ハンセン指数	23,063.57	▲ 969.34	USDJPY 1M Vol	21.09	4.23%
上海総合	2,789.25	▲ 98.17	USDJPY 3M Vol	16.21	2.91%
NY金	1,486.50	▲ 30.20	USDJPY 6M Vol	13.53	1.98%
WTI	28.70	▲ 3.03	USDJPY 1M 25RR	-9.40	Yen Call Over
CRB指数	132.71	▲ 8.12	EURJPY 3M Vol	15.08	2.26%
ドルインデックス	98.07	▲ 0.68	EURJPY 6M Vol	12.88	1.58%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
3月16日	11:00	中 鉱工業生産(年初来/前年比)	2月 -13.50%	-3.00%
3月16日	11:00	中 小売売上高(年初来/前年比)	2月 -20.50%	-4.00%
3月16日	14:06	日 日銀金融政策決定会合 当座預金政策金利	-	-0.10%
3月16日	21:30	米 NY連銀製造業景気指数	3月 -21.5	3

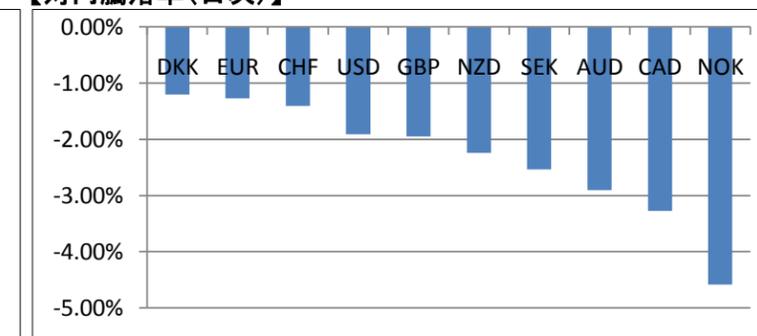
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
3月17日	13:30	日 鉱工業生産(前月比/前年比)・確報	1月 -	0.8%/-2.5%
	18:30	英 週平均賃金3ヵ月(前年比)	1月 3.2%	3.2%
	19:00	独 ZEW調査(現状/期待)	3月 -30/-30	-15.7/8.7
	21:30	米 小売売上高(前月比)・速報	2月 0.2%	0.3%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



東京
 週初の早朝にFRBが100bpsの緊急利下げや量的緩和の再開を発表すると、ドル円は一時105.74まで急落する場面もあったが、東京時間は106.50レベルでオープン。日銀の金融政策決定会合が緊急で本日午後開催されることが発表され、政策への期待から、正午にかけて107.56まで上昇。14時過ぎに日銀より追加緩和策が発表されると、106円台後半に反落していたドル円は、日経平均株価が急上昇したことに伴い、107円台へ再び乗せる。しかし、滞空時間は短く、ほどなく株価がマイナス圏へ反落すると、ドル円も下落。結局、106.30レベルで海外時間に渡った。

ロンドン
 ロンドン市場のドル円は、106.30レベルでオープン。米緊急利下げ後も米株先物が下げる中で欧州株が大幅下落で寄り付くと円買いが105.15まで進み105.70レベルでNYに渡った。ポンドは、1.2350レベルでオープン。特段の新規材料がない中で先週からのポンド売りが継続。ただ方向感はない中場の変動は大きかった。1.2260-1.2372のレンジで取引され、1.2330レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 神田)

ニューヨーク
 昨日のFedの緊急利下げやQE再開の発表を受けても、先物が大幅に下落し、105.74まで下落するが、日銀も緊急の金融政策決定会合で追加の資産購入を発表したことから107.56まで戻すものの、戻り売りに105.71まで反落し、105.70レベルでNYオープン。朝方は、調査期間が3/2~10日の3月NY連銀製造業景況指数がマイナス21.5(前回12.9)とコロナウイルスの影響で下落幅が過去最大となり、105.15まで下押しする。その後米株式市場で寄り付き後すぐにサーキットブレーカーが発動し、一旦売買停止になり、取引再開後買い戻しが優勢となったことから106.48まで戻す局面もあったものの、NY連銀が朝の分に追加で午後5000億ドルのレポオペを実施することを発表し、ドル買いが後退したことから、105.58まで反落。午後は、G7首脳会議に必要な景気刺激措置を講じることで一致団結とのヘッドラインが伝わるが、ドル円の反応は限定的だった。終盤にかけては、ホワイトハウスの会見を控え、106.45まで戻す局面もあったが、トランプ大統領がコロナウイルス問題が夏、またはそれ以降まで長引く可能性を伝えると、軟調な株式市場が更に下げ幅を拡大したことからドル円は105.77まで反落し、105.86レベルでクロスした。一方、ユーロは海外市場でドル売りが強まり、1.1240まで戻したユーロは、1.1187レベルでNYオープン。朝方は、ドル売りに1.1094まで下落するが、前述のNY連銀の追加のレポオペのニュースを受けドル買いが弱まったことから1.1178まで戻す。終盤に掛けては、マクロン大統領がすべてのEUの国境を30日間閉鎖と話したことが伝わるが、ユーロの反応は薄く、方向感のない推移が続き、1.1183レベルでクロスした。(NY井上)

【マーケット・インプレッション】 サプライム危機は100年に一度のリスクと言われたが...

昨日はダウが一時3000ドル超と過去最大の下げとなり、世界同時株安の様相である。ところで、2008年のサブプライム危機の際にはどうだったであろう。当時一年前の株価と比べて、米国では約4割、本邦では約5割、中国上海株は6割以上の下落となった。今度の危機をサブプライム危機と比較する見方も多いが、今回と前回では決定的に違うところがある。今度の問題はコロナウイルスによる世界経済活動の停滞であるが、サブプライム危機の直接的な原因は信用収縮で、信用不安から換金売りが雪だるま式に膨らんだことにある。その根底には金融工学の進歩による副作用で金融機関の財務が不透明になったしまったということがあり、更に米国政府の対応が後手に回ったとされ市場の信頼を失った。新聞紙面には政権末期の「レームダック」という言葉が踊った。事態に対抗するため、米国、ユーロ圏、英国、カナダ、スウェーデン、スイス、中国、アラブ首長国連邦、香港、クウェートの世界10中銀が協調して利下げした。このようにサブプライム危機とは専ら金融セクターでの信用収縮が主因であった。

今次FRBが昨日100bpの利下げに踏み込んだことはその迅速な動きが驚きであった。それほど今回のコロナウイルスに対する危機意識が高いということであろうが、少なくともサブプライム危機のときに比べれば格段に動きが早いと思う。そして何よりも、信用収縮のリスクは今のところ顕在化していない。2月の段階では、世界はコロナウイルスに関して楽観視して、西欧諸国は対岸の火事のように眺めていたのではないだろうか。しかし、足許で騒動の中心は中国からヨーロッパへ移動した感があり、突然西欧世界が過度に悲観になったように思える。いずれにしろ、信用収縮までは起きていない段階で当局が早めに行動を起こしたわけで、そうであるならば足許の動揺は長く続かず、サブプライムショックと比べて世界経済への影響は相対的に小さいと考える。(加藤)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 加藤・上地 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ペア	ペア	ペア

ブル	ペア
8	12

